

宮島口商店街活性化プロジェクト ～宮島工業高等学校 建築科3年の取組み～

広島県立宮島工業高等学校 教諭 沖野 浩明

<https://www.miyajima-th.hiroshima-c.ed.jp/h-okinok893495@hiroshima-c.ed.jp>

はじめに

広島県立宮島工業高等学校は創立 63 年を迎え、機械科・建築科など 6 学科（定員 840 名）を有する工業高校である。本校建築科では、「地域貢献」をテーマに掲げ、これまでも「大野みんなのまつり」や「インターハイ会場装飾」、「宮島伝建地区保存事業」など、地域と連携した実践的な活動に取り組んできた。本稿では、これらの活動の一環として令和 5 年度から令和 7 年度にかけて取り組んだ「宮島口商店街活性化プロジェクト」について、その背景、活動内容、および教育的成果を報告する。

1. 宮島口の現状と課題

宮島口は、JR 宮島口駅からフェリー乗り場までの約 200m の動線を有する交通結節点である。年間約 500 万人（2025 年実績 497 万人）もの観光客を迎える「世界遺産の玄関口」でありながら、現状は単なる通過点となっており、通りが閑散としているという課題があった。栈橋付近の商業施設は集客できているものの、商店街の通り自体には足を止める魅力が不足していた。また、2025 年の大阪・関西万博の影響による外国人観光客の増加（75.8 万人）や、2026 年の世界遺産登録 30 周年を控え、日本人観光客も含めた魅力発信の強化が求められている。

2. 活性化に向けた提言と連携体制

本プロジェクトでは、宮島口を「通過する場所」から「滞在し、関わりたくなる場所」へと転換させることを目的とした。具体的には、「宮島口憲章」にある「そぞろ歩いてゆしみたくなる賑わいのある宮島口」の実現を目指し、以下の 4 つの提言を掲げた。

- ① 交流・体験ハブの創出
- ② ストーリー発掘・デジタル発信の強化
- ③ 商店街の生活機能向上
- ④ 協同プラットフォームの構築

特に「④協同プラットフォームの構築」においては、官民学の連携体制を確立した。宮島口みらい協議会（民）、廿日市市宮島口みなとまちづくり推進課（官）、広島工業大学（学）、そして

本校（高）が連携し、本校卒業生である広島工業大学の学生（石井沙也加氏）の協力も得ながらプロジェクトを推進した。

3. 製作活動の内容とプロセス

社会実験としての賑わい創出に向け、商店街に設置する「移動可能なファニチャー（家具）」の製作依頼を受け、建築科の生徒 7 名が中心となり取り組んだ。製作物は、ワゴン（3 台）、テーブル（3 台）、椅子（12 脚）である。宮島口の特性上、国道 2 号線の地下道を通行して搬出入する必要があるため、ワゴンは EV（エレベーター）に積み込めるサイズに折り畳み可能であること、テーブルや椅子はワゴンに積載して一度に移動可能であることなどが設計条件となった。生徒たちはワゴン班、机班、椅子班に分かれ、令和 5 年 4 月の依頼から、令和 7 年 2 月の設計完了、令和 8 年 1 月の製作完了に至るまで、長期にわたり設計・製作を行った。

4. 成果と今後の展望

完成したファニチャーは、宮島口でのマルシェやイベント等で活用され、賑わい創出の「装置」として機能することが期待される。本活動を通じ、生徒たちはものづくりの技術向上だけでなく、実際の地域課題に触れ、解決策を具現化するプロセスを経験した。依頼主や地域住民と関わり感謝される経験は、自己肯定感を高め、将来のものづくり日本を担う人材としての成長につながったと考える。今後も工業高校の特色を活かした地域貢献活動を継続していきたい。

おわりに

本プロジェクトの推進にあたり、多大なるご協力をいただいた宮島口みらい協議会、廿日市市役所、広島工業大学の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 宮島口みらい協議会ホームページ
- 2) 廿日市市宮島口みなとまちづくり推進課 資料